

第 18 回廿日市市産業振興審議会 議事録

日 時：令和 7 年 6 月 16 日（月）10：00～12：00

場 所：廿日市市役所 3 階 政策審議室

出席者

（委員）

- ・ 県立広島大学 副学長 上水流委員（会長）
- ・ 広島修道大学商学部 教授 富川委員（副会長）
- ・ 廿日市商工会議所 会頭 澁谷委員
- ・ 佐伯商工会 会長 夏原委員
- ・ 大野町商工会 会長 田畠委員（代理出席 松井副会長）
- ・ 宮島町商工会 会長 松本委員
- ・ 一般社団法人はつかいち観光協会 代表理事会長 塩田委員
- ・ 一般社団法人宮島観光協会 会長 中村委員
- ・ 廿日市市金融懇談会 幹事支店長 末次委員
- ・ 中国経済産業局 総務企画部 企画担当課長 中野委員
- ・ 廿日市公共職業安定所 所長 地主委員
- ・ 広島県商工労働局 地域経済支援担当部長 石濱委員
- ・ 廿日市市 副市長 村上委員

※広島工業大学 副学長 林委員、ひろしま農業協同組合 佐伯中央地域 統括長 野村委員、一般社団法人はつかいち観光協会 代表理事会長 塩田委員の 3 名は欠席

（事務局）

- ・ 産業部長
- ・ 産業部 産業振興課長
- ・ 産業部 農林水産課長
- ・ 産業部 観光課 係長
- ・ 産業部 産業振興課 産業企画係 係長
- ・ 産業部 産業振興課 産業企画係 主任
- ・ 産業部 産業振興課 産業企画係 主任主事

配布資料

- ①次期廿日市市産業振興ビジョンの施策・方向性の整理
- ②次期廿日市市産業振興ビジョンの施策体系（案）の概要図
- ③次期廿日市市産業振興ビジョンの施策体系（案）
- ④廿日市市の産業振興に関する市内事業者アンケート調査結果（最終版）
- ⑤廿日市市の産業振興に関する市内事業者ヒアリング調査結果
- ⑥第 17 回廿日市市産業振興審議会 議事録

1 開会

開会あいさつ、委員紹介（事務局：産業振興課長）（記録省略）

会長挨拶（上水流会長）

- ・皆様、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。今日はビジョンの骨格となす部分を決める場となりますので、様々な現場の状況を踏まえて、ご意見をいただきながら、修正すべきところは修正する、しないで良いところはしない、という形でご意見を頂戴できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2 議題

事務局：産業振興課長

- ・それでは、これより議事に入ります。議事進行は、規則第 3 条第 2 項の規定により会長が行うこととなっておりますので、上水流会長にお願いできればと思います。よろしくようお願いいたします。

上水流会長

- ・それでは議事に入りたいと思います。それではお配り頂いた資料の①から③について事務局より説明をお願いします。

事務局：産業振興課 係長より資料説明（記録省略）

（1）次期廿日市市産業振興ビジョンの方向性について

中野委員

- ・方向性についての意見・感想として、学生の就職や自動車関連、地域支援関係における人材の呼び込みと定着について申し上げます。地元就労の促進と人材確保の推進において、人材の流動性を考える際、ターゲットをどこに絞り込むかという点がまだ明確ではないと感じました。ターゲットに応じて必要な人材も変わってまいりますので、対象に応じた人材育成政策や教育プログラムが重要になると考えます。
- ・最近、私どもでも調査を担当しておりますが、ものづくり企業の産業振興に向けた人

材確保については継続的に取り組んでまいりました。しかし、それ以外の観光、交通、農業などのエッセンシャルワーカーの分野においても、今後の人口減少により現場のニーズが非常に高まってまいります。実際に求人も増加しており、現場の人材不足は深刻化していくと予想されます。

- ・エッセンシャルワーカーの人材確保については、単に人数を確保するだけでなく、現場の生産性向上も含めて、実際に現場で活用できる人材、具体的には IT や専門知識を理解できる人材を育成する方法が重要であり、これらを一体的に進める必要があります。このようにターゲットを絞り込んだ取り組みが必要だと感じております。

上水流会長

- ・ありがとうございます。まずは様々なご意見をいただいて、それらを整理しながら進めていきたいと思っております。人材育成の部分でターゲットの明確化、特にエッセンシャルワーカーの分野をどのように取り扱うかというご意見をいただきました。他にいかがでしょうか。

富川委員

- ・先ほどご意見が出ました人材育成に関して、人材育成の部分と事業者支援の第1次産業の部分について申し上げます。DX化やIT化の話がありましたが、方向性の整理を拝見した限りでは、これまでの人材採用方法や生産性向上の手法から抜本的な改革になっていないように感じております。
- ・様々な情報を見ると、DX化、IT系、AI活用など、時代は大きく変化してきており、今後を考えるとこれらが重要になってくると思われまます。この点が詳細部分に含まれているのかもしれませんが、方向性として見えにくかったというのが一点目です。
- ・また、私の専門である観光分野について申し上げますと、「観光の基幹産業化」という表現が非常に気になるところです。廿日市市全体で基幹産業は何かと考えた場合、現在は何が該当するのでしょうか。

事務局：産業振興課 係長

- ・産業構造調査により明らかになっておりますが、基幹産業とは市の外からお金を稼げる産業ということでありまして、現在市内では木材関連産業と食料品製造業関係の産業がこれに該当するとされております。

富川委員

- ・そうしますと、市全体で観光の基幹産業化ということは、その木材や食品を凌ぐ規模まで発展させることになってしまいますが、それは現実的ではないと思っております。観光の場合は通常、既存の基幹産業を活かした観光を進めるというアプローチを取らないと、非常にリスクの高い分野となります。基幹産業化というのは、本当に他に産業がない地域に適用すべき考え方だと思います。もしこれを宮島に限定するのであれば話は別ですが、目標設定として、資料3を拝見しましても、現在の観光が占める割合は1.5%程度であり、これを基幹産業に押し上げることは困難だと思います。この点について、異なる視点で考える必要があるのではないのでしょうか。

事務局：産業振興課 係長

- ・産業構造調査自体、コロナ禍での調査でしたので、実際の数値の半分程度になってい

ると考えております。実力的にはその倍、現在の倍程度の力はあると思われま。主に宮島と宮島口になりますが、これらの規模の地域で動いている経済は比較的大きな力を持っているのではないかと構造調査の担当者も指摘しております。基幹産業を取って代わるという意味ではなく、現在ある基幹産業にプラスして、観光産業も基幹産業として稼げる柱を増やしていこうという考えで記載しております。ただし、表現が分かりづらいとのご指摘ですので、修正を検討いたします。

富川委員

- ・宮島・宮島口だけを焦点に据えていらっしゃるのであれば、そうした考え方もあり得るかもしれませんが、廿日市市にはそれ以外の地域の観光発展という課題が以前からありますので、そうするとかえってその他の地域が手薄になる可能性があると思いま。

事務局：産業振興課 係長

- ・基幹産業になるためには、外部から稼いできて市内で循環させ、波及効果を大きくできるかという点が重要です。宮島で外部から稼いできているものを市外のものを購入して利益を得るのではなく、市内で調達して売り上げに繋げていくという循環を実現したいという考えも含まれております。

富川委員

- ・言葉の定義が異なるということかもしれません。

事務局：産業振興課 係長

- ・工夫して修正するよう検討いたします。

上水流会長

- ・ありがとうございます。現在の産業振興ビジョンを拝見しますと、5つの方向性として「人づくり」「循環させる」「呼び込む」「打って出る」「産業インフラの整備」が後期5年間のテーマになっていました。特に「ひとづくり」は後半から追加されたもので、前期にはなかったと思います。
- ・これを踏まえて考えますと、この10年間でAIの発展やDX化が当たり前になり、観光分野では不安定な時期もあり、人口減少が続き、広島県からの人口流出も続いているなど、新たな課題や経済動向が明らかになってきております。
- ・そうした視点で考えた時に、現在ある産業振興ビジョンと比較して、今回はどこに時代の変化を反映させて変更したのか、今回の産業振興ビジョンで想定している課題は何だったのか、その課題を踏まえた上でこのような産業振興ビジョンを策定したのだ、という振り返りを踏まえた説明が必要ではないでしょうか。まず、そこを伺いたいと思います。
- ・二点目として、ここに記載されているビジョンそのものは大きな方向性として間違っているものではありませんが、廿日市市という地域を考えた時に、特に観光は廿日市市らしさかもしれませんが、廿日市市として課題となる部分、市としての産業構造を考えた時の特徴についてご説明いただければ、廿日市市としての独自色も見やすくなると思います。この2点についてご説明いただければと思います。

事務局：産業振興課 係長

- ・現行ビジョンの課題として、まず事業者に対して各種制度が十分に伝わっていない点が挙げられます。また、戦略1で掲げている人材の育成・確保については、前回の反省点として申し上げました通り、若者が地元で働くことに対してプラスのイメージを描きにくいという点が慢性的な課題となっております。
- ・戦略2については「フードバレーはつかいち」などを掲げておりますが、一定の効果は出ているものの、食のブランド化に向けた連携までには至っていないと考えております。「木のたびネットワーク」については、市民の森づくりに関する関心を高める取り組みがまだ十分ではないため、今後必要だと考えております。
- ・また、伝統工芸品などの伝統的産業については、収入の確保など持続的な発展に向けた環境づくりが必要としております。観光についてはマーケティングとマネジメント機能の強化を課題として挙げております。
- ・前回のビジョンには観光に関する様々な内容も含まれており、課題としてごみ・トイレ問題、ホテル・旅館との連携の必要性、中山間地域との連携、交通網の整備などを挙げておりました。
- ・今回は、前回のビジョンを振り返り、まず体系を整理し直すことを目的として、大きく4つの柱を設定しています。
- ・なお、観光については、観光客に対する施策や過ごしやすい観光地にするための施策は観光振興基本計画で扱うこととし、産業振興ビジョンでは観光に関わる事業者をどのようにより良く支援するかという方向性に特化して記載したいと考えております。
- ・産業構造については、廿日市市にはマツダのような1社で大きく牽引するような事業者はありませんが、中小事業者をはじめ、市外から収益を獲得している製造業、サービス産業、小売業が多く存在するという特徴があります。
- ・ただし、市外に流出する資金が大きいという構造的な問題があります。製造業が市外から資材を購入する割合が高く、サービス業なども市外に発注し、市外のものを仕入れて市内で販売している状況があります。また、市内で働く人と市外（広島市）で働く人の割合が4割程度となっており、市外からお金を稼いできているという状況があります。一方で、市内で消費する場所も整備されており、市民が市内で消費している割合は高くなっているという構造になっております。

上水流会長

- ・ありがとうございます。現行のビジョンが特に大きな問題がなく順調に進んでいるのであれば、このまま継続しても良いかもしれませんが、しかし、現在と異なる状況になっていると判断された時に、このような視点で新しいビジョンを作成しました、という点があると、新しいビジョンについて理解しやすくなると思います。
- ・例えば、前回のビジョンと比較して、誰が何をするかという点が分かりづらかったのではないかと感じました。そのため、事業者や地域などの主体を明確にしながら作成したのかと思いましたが、事業者の部分は明確になっているものの、地域の部分はそこまで地域住民が何かを行うという内容でもないと感じました。
- ・このビジョンの方向性がどのような形で前回から整理されてきたのかという点について知りたいと思いましたが、あまり時間をかけすぎても適切ではありませんので、そうした疑問を持ちながら拝見していた、ということをお伝えしておきます。
- ・前回のビジョンの検証を行った際に、個別具体的な問題点が色々あったと思います。しかし、このビジョン全体の大きな方向性を見直す時に、どのように考えるべきかということ、現在のビジョンの課題が大きな視点で見た時に何だったのかということが、

廿日市市でどのように整理されたのかを知りたかったのですが。

事務局：産業振興課 係長

- ・基本的に前回のビジョンから大きく変更はしておりません。取り組みの方向性が間違っていたということではないと考えております。ただし、人材という観点はより重要性が増してきているため、そこには重点的に取り組む必要があると考えております。

上水流会長

- ・なるほど、理解しました。ありがとうございます。他の委員の方からも率直なご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

中村委員

- ・観光についてお話させていただきたいと思います。過去にも同様の発言をしているかもしれませんが、コロナ前にはインバウンドが 3900 万人入国していたと聞いており、2030 年までには国が 6000 万人、約 1.5 倍に増加させたいという計画があると聞いております。これからも宮島を中心に廿日市に外国人観光客が多数来訪する可能性があります。現在、宮島には 485 万人のうち約 64 万人がインバウンドですが、この数字も増加していくと予測されます。
- ・現在、羽田、成田、関空の国際線がほぼ満杯状態になってきているということも聞いております。私の推測ですが、今後は地方空港にも外国人向けの路線が整備され、利用が増加するのではないかと思います。これまで広島・宮島は欧米豪のお客様が多かったのですが、最近はインドの方やアジアの方も増加してまいりました。
- ・そうした状況を考えると、広島空港にそうした路線を誘致していただくことも今後可能性があると思います。そうすると、地方空港や地方に様々なインバウンドに関するビジネスチャンスが生まれます。これはチャンスですので、それを活かさなければならぬと思います。
- ・そうしたことを踏まえ、可能であれば的を絞って人材育成や創業支援などを今後検討していったらどうかと考えます。
- ・実際に宮島口から新しく整備していただいた皆様のところから広島空港への、まだ社会実験段階でしょうか、ワゴンバスを運行していただいたり、そうした新しい交通インフラの整備を実施していただいております。インバウンド対応ということで様々な可能性が生まれてくると思います。
- ・併せて、廿日市市内で外部から来られたお客様に対応していただくためには、これも何度かお話したかもしれませんが、交通インフラ、交通体系の整備が重要です。これは観光だけでなく、全般的な課題だと思います。岩国錦帯橋空港も羽田便が就航してかなりの期間にわたってビジネスのお客様も多く利用されているということですが、広島空港と錦帯橋空港を上手に活用していただき、これは廿日市市内だけの問題ではないかもしれませんが、岩国から廿日市、広島、呉、東広島といった地域が広域で連携して観光振興を図ることができれば良いと思います。広島湾周辺のそれぞれの自治体が観光振興で力を合わせることであれば良いと考えます。
- ・私はウッドワン美術館の館長をしておりますが、ここから約 1 時間かかるということが本当にネックで致し方ないと思いますし、もちろん館としての努力や営業努力もまだまだ必要だと思っておりますが、良いものもあると私は思っておりますので、広域でお客様がスムーズに移動していただけるような交通体系の整備も重要です。現在、広電バスで佐伯町まで行き、そこからさくらバスを利用していただいて、冬場のス

キーのお客様なども若い方が利用していただいているようですが、もっと様々な工夫が必要だと思います。宮島口までは鉄道が2本あるので利便性が高いと思いますが、そこから先の大野地区との一体化を図るようなバス路線を整備していただくなど、そうしたことをより一層検討していただければと思います。様々な方が、外国人のお客様も、国内の旅行者も、市内在住の方も、スムーズに移動できるようになれば良いと思います。

末次委員

- ・私はこの春、廿日市に着任したのですが、ここで感じることは、廿日市は経営者の方にお会いしても比較的若い方が多く、様々な観光資源もあり、この広島県内においては非常に成長しているイメージのある市だと思います。実際にそう感じております。
- ・そうした中で、もっと具体的な施策において、観光基幹産業化以外の部分については、おそらくどの市町村でも当てはまるような内容なのではないかと思っております。もっと廿日市の先進的なイメージや、このワクワクする廿日市というワクワク感がここでは十分に感じられないのではないのでしょうか。
- ・やはり今、ビジネスや産業において、世界的にもGXやDXが急速に進んでいる状況ですので、この県内において先進的な廿日市のイメージをもっと打ち出せるよう、もっとエッジの利いた形にできれば、市民もワクワクし、産業も前向きに取り組めるのではないかと思います。

上水流会長

- ・今、様々なご意見をいただきましたが、今日議論となっている資料1の中でも方向性の整理という部分だと思います。そこが主な議題で、施策の検討や具体的な課題については、そのためのイメージを作るものとしてあるのだと思います。さらに、議題2として施策体系が次の議題になってまいります。そうした中で、今ワクワクするようなものがあつた方が良いのではないかと、ターゲットを絞つた方が良いのではないかと、インバウンドがどんどん増加することについてどのように対応するのか、といった話をいただきました。
- ・特に私も、今ご意見が出ましたように、廿日市市は本当に広島県内で見えていくと今後どんどん発展していく、非常に先端的なイメージがあるのですが、そうした意味では確かに何か堅いというか、ワクワク感がないというか、そうしたことを私も同様に感じながら正直拝見しておりました。もう少し楽しそうな言葉がこの方向性の整理のところ、方向性1、方向性2、方向性3として表現されると良いのではないかと思います。ただし、委員会でももう少し具体的な案を出すべきだと言われそうですが、そこをすぐに提示できないところが悩ましいのですが。
- ・例えば、この中にどのような要素があれば良いのでしょうか。今、概ね考えたこととして、方向性の整理に記載されていることは間違っていないのですが、海もあつて山もあるという、先ほど森林が重要だという言葉が出ていましたが、もう少しこの文言の中に海、山、森を活用するような、そうした廿日市の特徴を示すような文言を入れることはできないのでしょうか。
- ・あまり詳細にはなりません。人材の呼び込みについても先ほど出たのは、ものづくりの基盤となるような人材もいればエッセンシャルワーカーのような方もいらっしゃるし、DXやGXなどができるような人材、現在市内に専門家がないということもありましたが、これはワクワクする言葉ではありませんが、やはり最初のところには「多様な」人材への対応というような言葉も入る必要があると思います。
- ・多様性がもう少し楽しく思えるような言葉はないかと思ったりもしました。どのよう

な人でも楽しく働ける場所のようなイメージではありませんが、そうした廿日市市の広島県内で県内の産業をリードしていく街として発信するような文言が入った方が良いのではないかと思いました。そうした廿日市市の特徴を表すような文言をもう少し入れて、この方向性を整理していただくと、私としては有り難いと思いながら、皆様の意見や議論を聞いて感じたところです。

- ・先ほど申し上げた観光の基幹産業化について、ここは文言の問題を検討しても良いかかもしれません。ここに記載されていることで最も重要なのは、市内の調達率が21%と低いということですので、この構造的課題があるため、この構造を変えることが最も重要だろうと考えています。もしかすると基幹産業化という言葉が適切なのか、もう少し構造的な転換のような表現が良いのかと思いながら、委員のご意見を伺っておりました。
- ・これはまた施策の検討のところで議論すると思いますので、まだ議論の余地があると思いますが、少なくとも方向性の整理の部分では、今委員の皆様がお話されたような思いが反映できるようなものがないかと思います。正直、それは感じましたので、ここで取りまとめるというよりは、文言のヒントをここで出して、それをまた廿日市市で整理していただくということで、「もう少しこのような言葉を入れてほしい」というものがあれば、出していただければ有り難いと思います。
- ・私が先ほど申し上げたのは海と森、それから多様性が良いか分かりませんが多様という言葉を入れましたが、他に何かありませんでしょうか。そうした意味でお知恵があれば、方向性の整理のところの作業もしやすくなると思いますが、いかがでしょうか。

石濱委員

- ・拝見していて、やはり廿日市らしさというものがもっと表現されれば良いと思っております。課題の面でもそうでしょうし、廿日市としての「強み」の部分をしっかり伝えながら、そこから施策につなげていくということは分かりやすく良いだろうと思っていました。
- ・県では都市と自然の調和や、先ほど上水流先生がおっしゃったような誰も取り残さないといった表現を使いながら整理をしていますが、県と同じでは意味がないと思いますので、そうした廿日市らしさが非常に分かりやすく表現されるようなフレーズから施策に繋がってくると良いのではないかと感じます。

村上委員

- ・先ほど聞いた中で、廿日市らしさ、エッジを利かせる、強みといった点があったので、案外これは今回、真面目に一応入り口なのでスマートな感じで表現されています。
- ・総合計画を作った時に、このワクワクというものをどうするかという議論がありました。総合計画としてワクワクということがあると、現在で言うと挑戦という言葉自体が適切ではないのではないかという意見もあります。何か非常に頑張らなければならないというストレスがマイナスではないかという意見も中にはあります。
- ・しかし、先ほど皆様のご意見にあったように、廿日市の強みや雰囲気、非常に勢いがある、市長はこの地域をエンジンとして各エリアに行き届く、要は核となるエンジンを作っていくというような表現もします。現在、子育てで言うと、20代、30代が多く転入する子育ての街になっているという点もありますので、少しこの辺りは職員も知恵を出しながら、事業者の皆様のご意見も参考にして、今日何か皆さんから一言でも何かこう出てくれば、そうしたことも踏まえて次回こういうものでどうかという形で提案できれば良いと感じました。
- ・昔の山下三郎市長の時は「日本の縮図」という表現をされていました。吉和ではスキー

ができる。あそこは実は寒冷地で、昔で言うところの寒冷地手当が出ていました。青森県とほぼ同じくらいの気候だという話も聞いていますので、宮島では海水浴があるということで、1つの市でここまで高低差があって「日本の縮図」というのはよく言われていました。

- ・人口も11万7000人で、日本の1000分の1なのです。予算規模や人口、その他様々なものを見てみると1000分の1程度になります。大体そうなので、そうしたところも意見を聞きながら思い出したところがあり、少し今日皆さんから何かここをこうしてほしいということがあれば言っていただきたいですし、職員や様々な関係者と検討していきたいと思います。

上水流会長

- ・取りまとめていただき、ありがとうございました。何でも良いので、皆さん一言ずつ思いついたことでも全然構いませんので、お願いします。

中村委員

- ・「全世代パワー全開廿日市」。全世代の全員でという意味です。

上水流会長

- ・ありがとうございます。取りまとめは最終的に市で行われると思いますので、本当に何でも構いません。私も今、聞きながら考えたのが、1番のところを少し変えて、「多様な人材を呼び込み、若者を育み、楽しく働ける」という表現はどうでしょうか。定着させるために楽しく働いてもらわなければなりませんので、そうした楽しいとか若者という言葉を入れてみてはどうかと思いました。本当に取りまとめの人の苦労を考えずに、皆様が思ったことを一言ずつでも言っていただければと思います。

地主委員

- ・実は山口局から広島に出向で来ている状況です。実は居住も廿日市に構える予定なのですが、よそから来た人間なので、廿日市の良さがよく分かると思います。廿日市に住んでみて思うのは、実は結構野球でカープの2軍の施設があったり、女子の野球チームがあったり、そうしたスポーツと関連したところが廿日市には結構あるのだなと思いました。そうしたスポーツと何かコラボレーションではありませんが、そうしたまちづくりもアピールしていった良いのではないかと思います。

澁谷委員

- ・ワクワクという言葉なのですが、私は40年ぐらい前の会議でワクワクという言葉を使っているのです。私の中では、「ワクワク」は結構陳腐だなという感じがしています。では何が良いのかと言われると困るのですが、聞いて未来が夢見られるような言葉というのでしょうか。それこそ聞いてワクワクするような、「ワクワク」ではなくて、それを聞いてワクワクするような言葉が良いのではないかと思います。

上水流会長

- ・リニューアルしても良いのではないかと思います。色々私は今、ドキドキではダメなのかとか、ドキドキしているのは良かったかなと思いつつ考えましたが、他によろしければ、あまり悩まずに思っただけであればと思います。

松井氏(田島委員代理)

- ・私は他の会でも委員として色々参加させてもらっているのですが、そのフレーズではありませんが、やはり魅力のある街と思ってもらえたら良いのですが、私が今回商工会副会長をさせてもらった時も、地元の商工会の会員に魅力のあるような会議で来てもらいたいと思って、よく言うのが、面白い、ためになる、また参加したい、また来たいと、そういうふうに思ってもらえるように魅力のある商工会、そういう会にしていくにはどうしたら良いのかなという、そこにまた戻ってしまうのですが、そんな思いを持って色々な会議にしても参加させてもらって、委員もやらせてもらっています。その魅力のあるという言い方が良いのかどうか、と思ったりするのですが、でも魅力があるからこそ、皆さんに来てもらえるのではないかと。

中野委員

- ・さっきのスポーツの話を受けまして、以前トライアスロンを実施されているという話を聞いていますので、まさに宮島の海から山まで全体でつながってくるという、まさに海から山まで丸ごと廿日市ということが実現していて、外から呼び込むような、人を巻き込むような、人材確保の話もあると思うのですが、そのためには魅力ある廿日市が海から山まで体験でき、かつ産業も海から山まであって、ここに来て住んでみたいということをイメージさせるものがあると良いかなと感じました。

上水流会長

- ・ありがとうございます。やはりそうした多様な自然環境はウリの1つです。他にいかがでしょうか。

夏原委員

- ・市域がかなり広いので、吉和地域の人口減少と私たち佐伯の人口減少を考えてみると、どんどん減っていくのです。去年はこちらの会員で言うと350~360人ぐらいだったのですが、10人が廃業されました。10人新規で入ってきた方がいたので、なぜ来たのですかということを知ったら、やはり自然が豊富にあって、子育てもでき、自分が新規で商売するのにも土地など様々な問題がある中で有効に活用できるでしょうということでした。そういうので選ばれてきたという方が結構多いのです。これを活かしながら、やはりこちらの地域で農業したいという方もおられるのですが、昔から商工業者、様々な業者が入っています。農業をしている方もいるのですが。
- ・そうした中で、やはり私はこれは個人的な考えなのですが、やはりその各職種で専門にアドバイスができる、うちの会員の中でリーダー的存在のような方ができれば一番良いのではないかなと思います。私は建築なので、農業のアドバイスはできません。農業に特化した人がそういう部署についてもらって、そこを包括するような形で指導しながら地域を盛り上げる。そういう形でやるのはどうかというのは今回のビジョンとして考えています。

松本委員

- ・私は宮島ですので、宮島のまちをどのように商工業を発展させるかというのが商工会会長の仕事だと思っているのですが、宮島自体はもう観光産業がほぼ全てになっており、それで生活しています。巖島神社の神の島というのがいつも使っているフレーズです。神の恵み、私たちは氏子というのもありますので、なかなかこれには反映しに

くい部分なのですが、神と一緒に私たちは暮らしています。ここに入るのは適切ではないところもありますので、島内はお墓もありませんので、それを代々守ってきておられます。そういうのも何か、1つフレーズでも入れていただければ、少し違う印象が出てくるのではないかと考えています。

上水流会長

- 例えば廿日市のそうした伝統を非常に大切にしているところもあるので、伝統と創造みたいな、相反するような要素を入れ込んで何かの文言を考えるという方法もあります。伝統と創造を融合させてというような文言でも、今の言葉を転換すると表現できるかなと思いつながら伺いました。

富川委員

- 私はもともと関東の人間で、こちらの広島に来ているのですが、宮島というのは多分、外国の人も全国的にも廿日市市にあるって知らないと思うのです。来て初めて「廿日市って何？宮島は広島じゃないの？」という感覚にしかなくなっているところがあります。宮島を売るのではなく、廿日市市全体を売らなければいけないのではないかといつも思っているのですが、その廿日市市の地図をもう少しクローズアップした形、「これが廿日市市だよ、その一部に宮島があるのだよ」というように、広島にあることをなるべく分離させて、廿日市市を強調させたいなといつも思っております。
- その中で廿日市市というのは先ほど日本全国が詰まっていると仰ったように、自然が非常に豊かで、森林もあるのに森林を活かした観光がされていなくて、森林セラピーもあるし、なかなか資源を活かしきれていない観光、やはり宮島に頼りすぎているのかなというのはあるのですが、吉和もなかなか上手くいっていないのがすごく悲しいのですが、山あり海あり温泉あり世界遺産あり、神の島もあつたり、けん玉があつたり、スポーツがあつたりと、結構キャンプ場なども結構あるのですが、そんなふうにはやはり自然が結構主要なところもあります。
- 何か致命的に欠けているのかなと思ったら、文化かなと私は思っていて、地方にはよく神楽があつたりとか、そういうポイントとするもの、けん玉とアーチェリーですね。とにかくアピールが非常に弱いのかなって思っています。
- この廿日市市一体でリゾート化できるようなそういう要素を持っていると思っていて、また訪れたいくなるのではなく、1回外国人であれば1ヶ月ぐらい休暇を取っていますから、1回廿日市市に滞在して、1ヶ月滞在してもやるのが十分色々あるので、そんな形で、多様な趣味に対応できる場所ですし、住んでも良いし、リゾート滞在しても良いし、いるだけで色々なことが廿日市市内で完結できるというような、そういう視点で何かできないかなと思っています。
- ニューージーランドだと南の島とか、他にもウサギの島みたいに言えるのですが、廿日市の形を取って、何か言えないかなと考えていますが分かりません。そんな感じで廿日市市全体をひとかたまりとして考えています。

上水流会長

- ありがとうございます。今私が聞きながら思ったのは、これもただ言っているだけですが、例えば廿日市市のブランド化みたいな文言もあっても良いのかなと思っています。
- 私は台湾を専門にしているのですが、台湾には文化創意産業というものがあります。要はその地域の台湾の文化という要素を産業化して発展させて稼いでいくというも

のです。それは、色々なバッグのようなものを作ったり、食べ物を作ったり、レストランなどを展開したりするのですが、それを文化創造産業と言って、私たちの文化資源、それは台湾という文化に非常に自信を持って、そういうものをアピールしながら産業を作っていきたいという考え方なのです。

- ・今のお話を聞いていて、文化要素をもっと使ったら良いのではないかということも思ったので、今、そういうものも台湾にはあったなあと思ったので一言付け加えさせていただきます。

中村委員

- ・文化のことについては廿日市商工会議所で澁谷会長が先頭に立っていただいて、上田宗箇流という、広島茶道の家元があって、もともと上田宗箇は家老で西大竹や岩国が所領で、佐伯町の朝原というところに隠遁されました。よくその水を使ってお茶を点てられた「岩船の水」というものがあつたり、或いは大野町の串山というところには上田宗箇の遺髪塚などがあって、商工会議所ではそうしたところの行事に出たり、御所を清掃したり、或いは同好会を作ってお稽古したりとかしておりますが、少しそういう江戸時代の文化的なことを掘り下げて活用できれば、という活動はしております。
- ・広島というのは全体的に被爆を受けて、特に上田流の親元の方は広島市内ですので、文化が途切れた部分もありますが、今の親元も一生懸命そういうところで、広島城の今度新しくされる部分についても一翼を担っておられると思いますし、宮島以外であれば、この廿日市、上田系の関わりというのは深いかなというふうに感じております。

澁谷委員

- ・廿日市には先ほど言われたように文化もある、スポーツもある、自然もある、色々なものがあるのです。ところが廿日市というのとくっつかないですね。我々廿日市商工会議所のメンバーの名刺の裏に、広島県の地図を書いて、廿日市はここにあるぞというのを持って歩いているのです。なかなかまず廿日市って読んでいただけないですね。名刺を渡して、どこですかと言われて。だから名刺には宮島のマークつけて、これ宮島のあるところなのですよって言わないと分かってもらえないです。だから、そういう良いものと廿日市という名前をどうやったらくっつけられるかということが重要なのではないかという気がしますね。

上水流会長

- ・これまでの会議でも何度も出てきましたが、宮島は世界的なブランドになっているところがあって、それを維持していくのも様々な努力があって大変なのだろうと思うのですが、一方で、その他の地域とどう循環させるか、廿日市全体でという議論にもなってきましたので、そうした意味では本当に廿日市のブランド化ということは、これからの廿日市市全体の産業を考えた場合、非常に重要な要素になるというご意見かなと思って伺いました。
- ・何かそういう方向性の中にそうした文言が入った上で、先ほど澁谷委員の言葉を借りれば、その結果ワクワクするって思えるようになれば良いなということだと思えるのですね。ワクワクがあまり使わないという意見もありましたが、もしこれに代わるような言葉があれば、それは非常に良いと思うのですが、いずれにしても、そういうことが感じ取れる文言なのかなと思いました。
- ・そうした時に例えば「定着させる」という表現を聞くと、少し怒られるかもしれませんが役所的言葉というか、定着させるみたいな、実際は定着したくなる、住みたくな

る、楽しく暮らせるという文言でないワクワクには繋がっていかないと思いますので、何かそのような、前はスマートな文言で出されたというお話でしたが、少しワクワクなり何なりが感じられるようなものになればと思います。

- また、若い人たちにとって考えるのは、失敗できるということは非常に実は街として大事なのではないかなと思っています。色々なチャレンジを若者にしてもらって、自分たちがやりたいことをやってみて、やらせてもらえて、上手くいけばそれが産業や会社に繋がっていく。駄目だったらそれはまたリトライすれば良いよ、ということが大切だなと思っていて、そういう成長するまちにはそういう要素があると思うのです。色々なことをやはりチャレンジさせて、それを新しく応用して繋いでいく、そうした時に言葉の入れ替えだけでもありませんが、チャレンジするみたいな文言は本当に良いことなのだろうなと思います。それは（失敗することもあるよ）という意味なのですが、何かそのような包容力も含めた文言があり得ると思います。若者から見ると何かここでやってみたいな、自分のチャンスをここで可能性を試してみたいなって思えるような、何かそういう文言があると良いのかなと思いました。
- 他によろしいでしょうか。それでは皆様から色々ご意見を言っていて、またこれは市役所で取りまとめてアイデアを出していただくということになるかと思えます。

（２）次期産業振興ビジョンの施策体系について

上水流会長

- 続いて、議題(2)として、資料2、3の説明にあった次期産業振興ビジョンの施策体系案についてですが、ここも含んだような議論をしてきているところはあるのかなと思います。
- 方向性1、方向性2、方向性3も、実際文言を考え直しましょう、方向性4も含めてとなっていますので、いろいろご意見は出しているのですが、加えて具体的取り組みや関連性など、もう少し具体的に落としているところもありますので、ここも先ほど観光の基幹産業化という文言はいかがか、というご意見もありましたが、そういうことも含めて、もう少し具体的取り組みとしてこういうものがあっても良いのではないか、これはこの方向性や具体的施策のビジョンなどを考えていく時の手がかりになるものとして出してもらえれば良いのかなと思います。
- 今それに関する議論もたくさん出てきてはいるのですが、伝統の活用ということも出ましたし、文化や廿日市市のブランド化ということも出たのですが、他にもこの部分でもう少し言いたいということがあれば、出していただければと思います。
- 先ほども出ましたけどDX化やGX化という言葉を出しましたし、これから今日今朝見ていたらなんかAIで医療をやるというようなのがNHKで出てきて、AIでまずやるのだみたいな、そんな時代も来るのかなと思ったのですが、AIという文言があった方が良いのかどうか含めて、何かしら、もしこういう部分でこれもまた多分、方向性が少し文言が変わってくると思いますので、ここも少し変化が変わったものがまた次回、提案されるものというふうに理解しております。そういうことも含めて、何かもう少しご意見があれば出していただけますでしょうか。

富川委員

- 先ほどからずっと議論していた廿日市を全体的にどういう風にしていくかというのは、もともと総合計画の方から引き継ぐものだと思うのですが、総合計画の方はどういう風に出ていて、そして、それを引き受けて、この産業振興ビジョンの方に入ると

思うのですが、総合計画で廿日市をどうしようとしているのでしょうか。

事務局：産業振興課 係長

- ・総合計画は、最上位に、市民一人ひとりがともに幸せに暮らせるまちづくりをしますということを掲げており、その下には、少しワクワクが入るのですが、目指す将来像として「安心して包まれワクワクが広がる未来への挑戦を楽しむまち～つなぎつながりともに歩む～」というふうに表現しています。
- ・その中に社会変化に対応したまちづくりをしましょうとか、安心安全な暮らしを作りましょうなどが入ってきていて、産業分野では総合計画では、今この資料2のところ記載している、真ん中に未来ビジョン2030で3行目、産業分野と書いてその後、「廿日市らしさを生かし、地域経済の好循環により発展するまち」というのを目指しましょうというのを置いています。

富川委員

- ・策定中ということで、まだ完成していないので、今このように廿日市全体の話が反映されれば良いということになりますね。

中村委員

- ・言葉にこだわるようで申し訳ないのですが、DXやAIといったアルファベットを使って、それは今の流行というか、目指す方向性を示している言葉だと思うのですが、先ほど先生が言われたようなAIで医療をするというのが具体的に、人工知能をどこをどういうふうに人工知能で判断して、どういうふうに反映して今まで劇的にこういう風になるのだという部分が、何かあまりDXとか何となくぼんやり分かるけど、それを導入することで、より良くなる部分がどういうふうに使ってどういう風によくなるのだというのが、私自身も、一般の市民の方もどこまで理解されているのかなというのを感じると思います。
- ・私も一応会社の経営者ですが、言葉は何となく使うことがあります、具体的にどう自分の会社のそういう今までの業務、そういうことを何とか活用してってコストダウンするのだとか、それがはっきり会社の中でも提示・明示できていないところもあるかなというものですから。少し分かりやすくしていただいた方が良いかなというところは感じます。

上水流会長

- ・そうですね。私が最近研究の世界でもAIがどんどん活用されていてびっくりするぐらいで、例えば我々のところでやっていたのは、こういう分野の論文を集めて内容をまとめてくれて言うと、それが全部当たっているかどうかは別ですが、見ていると、全部論文を調べてくれて、こういう内容でこういう研究が行われていますということを出してくれるのです。これに今まで我々はすごく時間をかけて、やっていたのですが、先行研究の整理はすごく大事なのですが、短時間の中でやってくれて、それをヒントにもちろんできていないところもあるので、さらにもっと自分たちで調べるのですが、それで研究方向を調べるということもありました。
- ・この前テレビで見っていたのはAIで出たのは、薬を作る時の創薬の色々な材料の組み合わせというのを、もうAIがもうすごい数通り出してくれて、その研究者が普通思いつかないようなものも出していて、それを試してみたらそっちの方が薬が良かったということも書いてあるのです。その考える本当に膨大なデータをたくさん出して

れるというのは、1つのAIの役割なのかなと思っています。正直言って、今それをやるかどうか悩んでいます。ただその何かしらやっぱりAIを活用できるということ自体が、今委員から出ましたように少し何か言ったようにイメージできにくいところとかがあります。

- この前DXの中国経済産業局の会合に出た時に慶應大学の先生が話していて、そのDX化ということも僕も聞きながら勉強していましたが、今はここにおいて、彼らはシステム・オブ・システムズと言っていたのですが、慶大の先生はシステムをつなげた上でのシステムを作っていく時にDXを使うのだと言っていました。
- 例えばそのタクシーで今タクシーを呼んで乗っていたりするという人とその人が病院に行こうというふうにしていたら病院では順番が予約されているというのがあるのですが、そのタクシーに乗っているのが遅れているのであれば、もう遅れているということ自体がもう次の病院の方のシステムにいて順番が繰り下がって行って、適宜良い順番になっていくみたいな、そういうことをお話されていて、したのでシステムをつなげていくシステムをDXで繋がってくのだという話だったのです。
- そういう時代を作っていくのだって話と、ああなるほど、そういうことかかって思いました。ただ本当にそこどっか駄目になったら全部駄目になるのではないかとかって思うはするのですが、やっぱそういうようなことを話されていたのです。
- 私もそういう話を聞きながらDX化って何をイメージするのかというのを少しずつ具体的に、掘っているのですが、何かしら、ある意味この人材育成とか人材の活用という中で言うのであれば、やっぱなんかやっぱそういうところはもう少しリアルに感じ取られて、経営者の方々がやっぱりメリットってのはこういうところにあるのだということを分かればいいのかとか、宮島で観光する場合にも何かいろんなアクシデントがあったらそれが、もう全部この先の予約とかに全部反映されて上手く処理されていくような、今は1ヶ所1ヶ所電話しないとイケないので、そうじゃないような観光のストレスがあまりないようなあり方について議論されていたので、そういうことも考えていけたらいいなと思いました。

富川委員

- 1つ質問なのですが、吉和の方に遺跡が発見されたという話がありまして、それが非常に歴史を変えるかもしれないと言われています。今そういったところは大体、世界遺産に登録されていて、もしそういうことになれば、廿日市市全体を見た時の地図の見方が変わってくるのかなと思っています。

夏原委員

- 佐伯商工会の総代会で、栗栖副会長が、学術調査で結論が出たら観光振興にも活用できれば、という話をされていました。
- 玉虫色の状態で動いても意味がないので、学術的な結論が出てから、地域として検討することになると思います。翌日から見学に来るお客様がいて、休みの日も誰か職員をつけるかという話もその場でされていました。

富川委員

- 観光に活かすのであれば、例えば屋久島の縄文杉ですかね。本当は平安時代なので、縄文ではないですが。そのように、産業全体を考えた時に何か活かせるものがあれば、組み込んでもいいのかなと思いました。

村上委員

- ・結論が出るまで2年ぐらいかかりそうということで、その論文をまた学者同士で研究されるということです。本当であれば、日本の人類がここから生まれてスタートした、ということになります。新聞にも一部出ていますが、吉野ヶ里遺跡のような活用を考えないといけないね、というところまで話は出ています。まずは信憑性の部分を検証する必要があります。

富川委員

- ・会見時のバックパネルを見ても廿日市市の名前がないので、宮島だけなのだなあ、廿日市市役所なのになあ、と思っています。

中野委員

- ・このような話の中でのGX、DXということで、今までの事業者の皆さんがそれを取り入れて頑張っていくというのは当然あるのですが、やはり外から受け入れるところが、色々な人材の話をしてきましたが、そんな企業も含めて、廿日市に来て創業したり、起業したいと思わせるような環境を発信することで、廿日市市に行ったら何か良いことがあるのではないかと、というのは、観光にプラス起業、人を呼び込む、企業を呼び込むという環境整備ができたのもありまして、広島県もスタートアップ等をやっていますし、広島市等もやっていますが、宮島の方でもスタートアップをいくつか聞いています。外から来たいという環境を整備する。DX、GX、AIもやっていく中で、スタートアップの視点もあります。
- ・地方創生の観点でいえば、地域活性化企業人など総務省の施策ですが、地域おこし協力隊の実際の人数が広島県は全国的に来られる方が圧倒的に少ないと言われていています。当然、北海道や長野などが多いのですが、一応聞いてみたらやはり岡山や島根に多かったりして、広島県はトータルで見ると少なくなったりするので、外部人材を生かして、これもどんどん使って、かけ合わせ、掛け算がどんどんあれば、発想が出るので、廿日市市に行ったら何か良いことがあるのではないかとと思わせるような、仕組みもあっても良いかなと思います。

上水流会長

- ・そういうことは重要ですよね。違ったものと違ったものがつながりながら、新しいものを生み出していくような環境を作っていくということだと思うのですよね。創発的な感じ、つながるとか循環する中、またその創発的に何か作っていくような要素という言葉も大事だなと思いますし、この中で言えば、とにかく、例えば本当に陳腐な文言かもしれませんが、若者チャレンジを支援するようなことなども、こういう中に具体策や具体的取り組みの中であって良いのかなと思いつながら、そういうどんどん動こうとする人を支援するような要素ということも、この文言の中にあっても良いのかなというふうに思います。
- ・地域おこし協力隊の話が出ましたが、外国人の地域おこし協力隊がどんどん増えているのです。総務省もそれを予算つけていて、要はインバウンドで外国人を使うということもあれば、技能実習、特定技能で地域にやってくる方も多いので、やっぱりそのことの間接関係を上手く結ぶために外国人の地域おこし協力隊を活用するという事もされています。
- ・今回の企業のアンケートの中で外国人の方については、言葉が通じなくて大変だというコメントもあったのですが、時代的にはどっちにしろそういう要素で、インバウンドも含めて考えていったら、強化していかなければいけないのかなと思いました。

松本委員

この表の○印がついているのが重点施策とのことですが、率先してやりましょうという意味でいいのでしょうか。重点的に先にやっていかなければいけないという形で○がしてあるのでしょうか。

事務局：産業振興課 係長

- ・取り組まないといけない数ある中でも、特にとという意味合いです。

上水流会長

- ・ここの○印についてもご意見があれば言っていただきたい。その左側が変わるので、多少ここも変わるのではないかと思うのですが。

松本委員

- ・普通であれば、5か年計画なら、この計画のスケジュールを作って、これはこの辺りまでにやりましょう、といったものを作ると思いますが。これは今から作るのですか。

上水流会長

- ・ロードマップというか、いつまでにこういうことをやっていく、みたいなものですね。

事務局：産業振興課 係長

- ・これから KPI などを設定していく中で、併せて検討していきます。

上水流会長

- ・早急なものが重点施策に入っているということですね。それなりに皆さんご意見や持っているイメージをお話しいただけたかと思います。事務局はいかがでしょうか。

事務局：産業振興課 係長

- ・ご意見を非常に多くいただきましたが、方向性自体は問題はないととらえています。言葉の整理のところや、今日いただいた廿日市らしさを出すというところは、もう一度改めて考え直して、次回までにご提案できるようにしたいと思っております。今日はもう十分意見をいただきましたかなと思います。

村上委員

- ・活発なご意見をいただき、ありがとうございます。まとめ方は事務局で整理させていただきます。
- ・先ほど上水流会長が言われたように、私はやっぱり今から特定技能も含めて、外国人労働者とこれから労働力が減っていく中で、どうやってそこをカバーしていくのかが喫緊の課題になっていると聞いています。つい先日、一般質問でも、その議論がありまして、どうも別の制度の方がストップするのではないか、という話も聞いており、まさに現在の課題だと思います。これからそういう方が来やすい環境にしないといけ

ないとなると、市としてその特定技能の方なり技能実習生に何か配慮したことがなく、実態がよく分からないという現実がありました。この4月から届け出制度が始まって、市の方もどこの企業に何人いらっしゃるのか分かるようになります。ですので、これからそういったところにも力を入れて、産業振興ビジョンの中にもそういう支援を入れよう、という方向性は次回少し提案できるかなと思っていました。最後に上水流会長に言っていただいたので、その辺りも活かしつつ、起業されている方、そしてこれからの方に、わくわくするような、希望が持てるようなものにしていけたらと思いますので、よろしくをお願いします。

上水流会長

- ・私自身が特定技能や多文化共生を研究していることもありますが、今おっしゃったように、今までそういう方は帰る方だったので、自治体もあまり施策を打ってこなかったという課題があるのです。大学生はほとんど半分以上帰るのですが、それでも大学生にすごく手厚いことをしようとするのですが、技能実習生に冷たいというのが私の感想です。今おっしゃられたことは非常に重要な視点で、特に技能実習生制度が変わり、育成就労になっていきます。そうすると、2年ぐらい働くと、どんどん自由に動けるようになります。実際に特定技能を取った方は、都会に出ているという話はあちこちから聞こえてくるので、そこは深刻な問題になってくるだろうと思っています。かつ、特定技能は夫婦で結婚して子供が生まれると定着・定住していく方もいらっしゃる、違う可能性も十分あり得るなどと思っています。そういうことも含めて、今おっしゃっていただいたことは重要な観点だなと思いました。
- ・本日は色々とランダムな形でご意見を頂戴しましたが、様々な視点から廿日市市の現在の状況、または産業への期待をお話しいただきましたので、そういうことも踏まえて、また次回の会議の方につなげていただけたらと思います。
- ・それでは、本日の議事、議題に関わる部分は以上といたします。進行の方を事務局の方にお返しいたします。

3 閉会

事務局：産業振興課長

- ・委員の皆様のご意見どうもありがとうございました。本日審議いただきました内容につきましては、事務局内で整理をさせていただいた後、後日、会議録の配布により皆様方に共有させていただきたいと思っております。
- ・以上をもちまして第18回廿日市市産業振興審議会を閉会させていただきます。委員の皆様、長時間にわたり、ありがとうございました。